

A study of determining factors of underweight among toddlers in Riau, Indonesia.

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2018-01-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00049688

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



平成 29年 8月 23日

博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号 1429022027

氏名 Agrina

論文審査員

主査(教授) 中谷 壽男

副査(教授) 表 志津子

副査(教授) 津田 朗子



論文題名 A study of determining factors of underweight among toddlers in Riau, Indonesia

リアウ州における幼児の低体重に関連する要因

論文審査結果

【論文内容の要旨】

本研究の目的は、インドネシア、リアウ州における1-3歳の子どもの低体重に関連する要因を明らかにすることである。研究デザインは横断研究であり、対象は多段抽出法を用いて抽出された12ヶ月から36ヶ月の子どもとその母親411組である。基本属性、子どもの過去の健康状態と食に関する問題の有無、食に関する母親の育児行動について、自記式質問紙票を用いて調査した。子どもの栄養状態は体重測定を行いWHO Anthro 2006 softwareを用いてweight-for-z-score (WAZ)を算出した。子どもの体重評価はWHO growth standards for toddlersを用い、低体重児は $WAZ < -2.00$ SD、非低体重児は $-2.00 \text{ SD} \leq WAZ$ をカットオフ値として分類した。本研究はリアウ大学医学倫理審査委員会から承認を得て実施した(承認番号143)

分析の結果、子どもの平均年齢は 23.2 ± 7.2 ヶ月、低体重児の割合は15.1%($n=62$)であった。低体重児では過去3ヶ月間に呼吸器疾患や下痢などの罹患や、摂食における問題があった子どもの割合が有意に高かった。子どもの食に関する母親の育児行動と子どもの低体重との関連では、食事前に乳汁を与えることが習慣となっている母親は58.9%、生後6ヶ月までに乳汁以外の食品を与えていた母親は53.3%であり、いずれも低体重児の割合が有意に高かった。

ロジスティック回帰分析の結果、子どもの低体重と有意な関連がみられたのは過去3ヶ月間に摂食における問題があったこと(OR:3.76)、生後6ヶ月までに乳汁以外の食品を与えたことがあること(OR:1.94)、食事前に乳汁を与える習慣があること(OR:1.92)であった。子どもの低体重には早期からの母親の不適切な育児行動が関連する可能性が示唆された。

【審査結果の要旨】

インドネシアにおいて子どもの低栄養は重要な課題であるが1-3歳の子どもを対象とした研究はない。本研究により母親の養育行動が影響しているという知見と、今後の対策への示唆が得られた。公開審査では、インドネシアの母子サービスシステム、母親への育児(栄養)に関する教育の状況、対象の抽出方法等について質疑が行われ、いずれも適切に回答がされた。以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士(保健学)の学位を授与するに値すると評価する。